

2014年3月 第40号

「白子川源流・水辺の会」会報紙



特集 源流をたずねて

■新連載 おかざきの源流探歩

■定例活動報告

白子川な風景 4



## 畑は大きな貯水池

雨水が川に流れ込む地域を「流域」という。ここ東大泉6丁目の農地は海拔50mで源流から700m地点。ここに降った雪や雨は、4m低い白子川源流をめざしてゆっくりしみこんで湧き水となり、多くの生き物の命を育む大切な流域である。この界限は幸いに、

都市農業の困難さの中で頑張ってきた農家の方々のたまもの。そして今、向こうに見える駅前開発の“追手”も、きっとここまでは及ばないだろうから、これからも、この空の青さと大地の広がりによって白子川源流を潤してくれることだろう。（写真・文/菅沢 博）

# 定例活動報告

8月、9月、10月、11月

## ■白子川源流域と活動の様子

夏から、冬にかけて



11月定例活動の子どもたち「さあ、これから草刈りだあ！」

### ■源流域・水の測定データ

測定地点	項目	日			
		8/25	9/22	10/27	11/24
源流部	天気	☀	☀	☀	☀
	気温℃	25.5	32.5	源	17
	水温℃	26.2	28.3	流	16.6
井頭橋	水深cm	2	26	ま	29
	PH	6.9	5.9	7	8.0
	PH	7.2	6.9		8.1

このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。

毎年、夏には水量は減り、源流部はわずかに水たまりが残る程度だ。2013年も8月はそういう渇水状態だったが、9月に入り大雨が降ると、もの見事に水量を回復した。雨後は木道のすぐ近くまで水が迫っていた。そのせいでだろうか、老朽化のためか、木道のいたるところで木が腐り穴が開いた状態が目立つようになった。

10月、さらに多量の雨が降ることが度重なった。すると、ついに川の源流部に「立ち入り禁止」のロープが張られてしまった。2014年の1月から3月にかけて木道を新しくするまでずっと川には入れないという。毎日川で遊ぶ子どもたちにとって、これほどつまらないことはない。だから、10月の源流まつりでは木道でクロメダカを放流したり、月に一度の定例活動では大人と共に川に入って、思いっきり川の時間を楽しんでいる姿が印象的だった。

会の定例活動を外から支えてくれるのは、長期にわたる TOTO のボランティアのみなさんと、この川に集う子どもたちだ。

定例活動日は手伝う子どもたちで川の中が活気に満ちて賑わう。大人用の胴長を着てカマを持ち、一丁前に働く子どもたち。長靴に水が入ってダボダボ音を響かせながら平気で川を闊歩している姿は、正に川小僧。「こは、ボクらのショバだよ！」って感じで、一生懸命手伝う。いや、もはや手伝うどころではなく、会にすばらしい提言をし、未来を見据えて活動し始めた少年も現れた。

都会のこの小さな川は、いつしか大人と子どもが対等に集える場となっている。

(東谷 貞子)

### 活動記録

8/30	源流通信第39号発行	11/10	暗渠ツアー
9/8	白子川源流まつり実行委員会②	11/17	白子川源流まつり反省会
9/19	TOTO 補助成金 26 年度分申請	11/18	源流のガマ刈取り、商品化試作へ
9/22	定例活動	11/24	定例活動
9/29	白子川グッズ各種制作	11/27	TOTO 補助成金の中間報告書提出
10/6	白子川源流まつり実行委員会③	12/22	定例活動
10/9	中学生の川ボランティア受入れ	1/26	定例活動
10/27	第13回白子川源流まつり	2/23	定例活動
11/3	ごたごた荘イベントに出展		

# 白子川源流まつり

2013. 10. 27

大泉井頭公園

報  
告

前回は、あいにくの雨で  
大南小体育館での開催  
となりましたが、今回は  
晴天の下、川風を感じな  
がら、ひと時を楽しんで  
いただきました。



大南小4年生の白子川発表



メダカの放流



展示コーナー

白子川グッズの  
竹炭づくり  
—事前作業—



地元の商店のみなさま  
ご支援感謝いたします



TOTOのブース



湧水探検ツアー



# 白子川源流の源流（新川）探検ルートマップ



## ルート解説

- ①源流部七福橋からスタート。源流の上流がブロックの歩道に整備されている。
- ②急に舗装道路になる。そのまま真っ直ぐ進む。
- ③マンションの庭に突き当たる。道路を迂回して進む。
- ④道が入り組んでいるので慎重に。
- ⑤1つ目の角を左に曲がる。
- ⑥「かえで通り」に突き当たる。
- ⑦天神山交差点を過ぎ、少し進むと右側に暗渠が出現。階段で2、3段下りる。
- ⑧「碧山(へきさん)小学校」で暗渠が消滅。小学校を迂回し反対側へ。
- ⑨裏へ回ると再度、暗渠が出現。さらに進む。
- ⑩西東京市役所の脇を通過。
- ⑪昔、池があったらしい如意輪寺(にょいりんじ)のわき道(歩道橋の下)を進む。
- ⑫暗渠が2つの方向に分かれる。右は谷戸小方面、左は第二中方面。
- ⑬暗渠が終わるが谷戸(やと)小学校のわき道を進む。
- ⑭東大農場に突き当たり、ここで終了。“源流の源流”はここらあたりか。
- ⑮昔ながらの駄菓子屋さんの脇から一部開渠。道路を迂回して進む。
- ⑯第二中に突き当たる。 ⑰終点

平成25年11月10日「白子川源流の源流探検ツアー」に行きました。

七福橋からスタート、整備された区間はすぐに終わってしましますが、「水は高い所から低い所に流れ、急に向きを変えない」と思いながら、周りを見ながら進みました。やはり、「周りより若干低いかな？」と思うところを流れていたように思います。

途中、お話を伺った方から「この地名は“ミズタマリ”といい、以前は土地もぬかるんでいた」ということでした。以前、川が流れていたことを実感しました。

1つ、残念なことは、電柱のネームプレートを見ていけば良かったと思います。少くくは「水」にちなんだ名前が発見できたかも知れません。

途中、暗渠の蓋が開いている所もありましたが、水は流れておらず、土が堆積し、ごみも多くあり、寂しい気持ちになりました。

暗渠のわき道に数百メートルにわたり、花を植えたりして活動されている方もいらっしゃるそうです。

是非、天気の良い日に、ご家族や友人と「源流の源流」を探検してみたいと思います。

新たな発見があるかも知れません。

細い道もあるので自転車がおすすめ。暗渠の上は凹凸が激しいので、私は少しお尻が痛くなりました。

八本 賢二

新連載



# おかざきの 源流探歩

## ①白子川の貴重種

岡崎 一成

白子川は、子どものころ(昭和40~50年代)、灰色のドブ川でした。就職して25年ぶりに大泉に帰ってきて驚いたのは、あの川がこれ程までに生き物が回復できたことです。白子川に生息している貴重種は16種にもものぼり(私が得た情報の範囲ですが)、23区内では珍しい特別な川と言えるでしょう。

しかしながら、護岸は固められ、周辺の自然と結びつきのない白子川は、復帰性が乏しく、人為的なインパクトによって貴重な生き物たちが簡単に失われかねない危うい川と思われます。また、生き物の構成が単純化、水の滞留による水質悪化、外来種などの移入種による優先状態など、人工環境に起こりやすい悪い現象も見られます。

白子川がより豊かな川になって、子どもたちの心に残るふるさとの川になってほしい。生き物の営みを観察し、川で何がおきているのか、見えないところで何が進行しているのか、美しく見える風景は健全な姿なのかなど、ちょっと目線を向けてみることも大切です。

今号よりスタートする連載が、白子川の川づくりを考えるヒントになれば幸いです。

RL: レッドリスト

※八の釜で確認されているニホンカワモズクのRL  
カテゴリー



撮影・岡崎一成

### 種名: カワセミ

目: ブッポウソウ 科: カワセミ

東京都(区部)RL: 絶滅危惧Ⅱ類

環境省 RL : —

「溪流の宝石」といわれる。魚、水生昆虫、エビ、ザリガニなどを食べる。水中に飛び込む瞬間、瞬膜(白い膜)が目を守って目を覆う。消化できないものは口からペリットとして吐き出す。



撮影・岡崎一成

### 種名: シマアメンボ

目: カメムシ 科: アメンボ

東京都(区部)RL: 準絶滅危種

環境省 RL : —

湧水の流れのあるところに生息(湧水の指標種: 環境省)。丸い体で、黄色に黒いシマがある。羽がない。秋の交尾の時期に羽の生えたものが現われる。成虫または卵で越冬する。



撮影・岡崎一成



撮影・横山松栄

種名：ホトケドジョウ

目：コイ 科：ドジョウ  
東京都(区部)RL：絶滅危惧Ⅰ類  
環境省 RL：絶滅危惧ⅠB類

湧水の流れ込む小川や水田の用水路などで生息。口ヒゲは8本、お腹が紫色。3～6月に産卵、2～5日で孵化する。生息環境が失われ、急速に数が減少。

種名：トウキョウダルマガエル

目：カエル 科：アカガエル  
東京都(区部)RL：絶滅危惧ⅠA類  
環境省 RL：準絶滅危惧

トノサマガエルによく似ているが、後ろ足が短い。「ンゲゲゲゲ…」という声で鳴く。4～7月に数回産卵する。生息環境が失われ、急速に数が減少。



撮影・本田 純



撮影・岡崎一成

種名：カワモズク

目：カワモズク 科：カワモズク  
東京都(区部)RL：—  
環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類\*

湧水の流れ込む小川や用水路などで生息。晩秋から冬にかけて大きく成長し、有性生殖を行う。胞子体は無性生殖。晩春になると姿を消す。各地で減少。

種名：ミズキンバイ

目：離弁花 科：アカバナ  
東京都(区部)RL：絶滅  
環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類

ミズキンバイは「水金梅」。多年草。夏に黄色の花を咲かせ、1日で散る。茎が折れるとそこから芽をだす。水域の開発や除草剤で絶滅に瀕している。

## エナガ

エナガはスズメ科の小鳥で、体長は14cmあるが、尾羽が長いので体躯は小さい。鳴声は「ジュリ、ジュリ」と聞こえる。額や腹は白く、くちばし、両目の上、尾羽などは黒い。アブラムシ等の虫を主食とし木の実や樹液も食べる。

以前は区内の石神井公園、光が丘公園などで見ることがあったが、最近は区内のいろいろなところで見かける。井頭公園でも見かけるが、井頭憩いの森、つつじ公園やその周りの民家の庭先にも来る。ほとんどは、シジュウカラの群れと一緒に行動している。



### 定期総会のお知らせ

6月15日(日)午後1時～  
東大泉地域集会所

この1年を振り返り、新たにスタートする大切な場です。会員のみなさま、ぜひご出席ください。

### 身近な川の全国一斉調査

参加者募集 !!

- 6月1日(日) 9時～12時 雨天決行
- 大泉井頭公園集合、動きやすい服装
- 川に入って水質・生物・植物等調査
- 申し込み先：菅沢 03-3923-8430

### これからの活動予定

- 3/11(火) TOTO 助成金団体交流会出席
- 3/23(日) 定例活動
- 4/20(日) 科学教育研究協議会東京大会  
プレ大会に参加
- 4/27(日) 定例活動
- 5/25(日) 定例活動
- 6/1(日) 身近な川の全国一斉調査
- 6/15(日) 定期総会
- 6/22(日) 定例活動 (6/21 運営会議ナシ)
- 7/27(日) 定例活動
- 8/3(日) 科学教育研究協議会東京大会  
本大会参加
- 8/24(日) 定例活動

※運営会議は定例活動の前夜です

### 編集後記

▼肺炎とは知らず、39度の熱と連続して出る咳と痰で、横になることも寝ることもできずにいた。少しでも休まるかと思いついたカメのポーズで布団にうずくまっていたら、自分の体のどこかからプチプチと泡立つような音が聞こえてきた。それは胸の奥から湧き出て上がっていくようだった。後で知ったが、それが肺の異常を知らせるラ音というものだった。(さ)

▼白子川源流近くの大泉第二小学校の校歌「この空をごらん」(まど・みちお作詞 S36 制定)は、子どもたちとよく唄ったものだ。♪この空をごらん/むさしのの/畑と林をつつんだ空を/ああ/気持ちちが明るくはれわたる/希望がいずみのようにわく……校歌制定から50年余、畑も林も少なくなってしまうが、白子川源流の湧水は今も変わらない。(ひ)

発行 白子川源流・水辺の会  
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子  
題字 宮本沙海  
発行部数 1,250部  
代表 菅沢 博 03-3923-8430  
練馬区南大泉 1-10-5  
[suga-lohas@jcom.home.ne.jp](mailto:suga-lohas@jcom.home.ne.jp)  
[http://www.geocities.jp/sirako\\_river/](http://www.geocities.jp/sirako_river/)  
※この会報は年3回発行しています

当会は TOTO 水環境基金の助成を受けています